
夢の夕暮れ

cokoly

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の夕暮れ

【Nコード】

N0654D

【作者名】

cokoly

【あらすじ】

久々に飲んだ酒のせいで悪い夢を見た。俺は何かに追い立てられ、逃げていた。

久しぶりに飲んだ酒は体の隅々にまで沁みた。

体内に取り込まれたアルコールは一晩眠っただけでは消化されず、その影響なのか、俺は夜明け前に全身を倦怠感に包んでしまうような気の重くなる夢を見た。

黄昏がいつまでも続く町並みの中、俺は疲れ切った体を引き摺るようにして逃げ回っていた。

そいつはずるずると地面を這うようにして俺を追ってくる。

俺はいくら走ろうとしても歩く事しか出来なかった。

体が俺の意志から切り離されてしまったように、言う事を聞いしてくれない。

しかしいくら後ろを振り返ってみても、そいつの姿は見えないのだ。

ずるずると言う足音だけが俺の耳を捕えて離さず、その耳の中の感触が、そいつが迫って来ている事を厳しく警告している。

俺は訳も分からず、とにかく逃げた。

夢の初めから逃げていた訳だから、何故逃げていたのかは分からない。

もしかしたらそいつは邪悪な何かではなく、害のない存在なのかも知れなかったが、とにかく逃げる事に必死だった俺はそいつの正体が何であるかという事を問題にしている場合ではなかったのだ。

今はこうするしかない。

とにかく走るしかない。

しかしやはり気持ち先走るばかりで、体は緩慢な徒歩を続ける事しか出来ない。

夕日はいつまでも沈まなかった。

俺の進行方向のほとんど正面に位置していた太陽は、燃えさかる炎のような赤とオレンジの中間の色で世界を染め上げていた。

俺は逃げながらもその姿を見て、世界は間違いなくあの赤い球体を中心に回っているのだと感じた。

生命の源。

種の起原。

いつか見た風景。

不意に訪れるデジャヴ。

俺がまだこの世の中の片隅の断片でしか物事を判断できなかった幼い頃、俺は確かにこうして夕陽に向かって走っていた。

それはただその時走っていた方向の先に偶然夕陽があったというだけの話で、何故走っていたのかはまるで思い出せない。

俺の記憶の回路はどうにかしてしまっただけらしい。

何かを思い出したときには別の何かを忘れてしまい、思い出そうとしているうちに別の何かをまた忘れていく。

俺は今まで何をしていたのだ？

ずるずる。

音が聞こえる。

俺はまた振り返り、地面の中から俺の影がゆっくりと立ち上がるのを見た。

俺自身のメタファー。

立ち上がった影と対峙した時、俺は自分の体からすうっと離れて、そのまま背中から夕陽の方へと吸い込まれていった。

目が覚めた時、酒は飲み過ぎるのも離れ過ぎるのも良くないのだな、と俺は思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0654d/>

夢の夕暮れ

2010年10月21日19時45分発行